

## コロナ禍で見つめ直した 会社経営の心



岡村貴透(59)  
杉並教会

### 相次ぐ試練

伯父おじが始めた建設会社の人材派遣事業部門を引き継ぎ、新たに会社を設立して十九年になります。土木作業や管工事など、一人で複数の技能を身につけた多能工の派遣を中心に事業を展開してきました。従業員十六人の小さな会社ですが、活気あふれる職場環境のなか、やりがいと誇りをもって働いてきました。

ところが、一昨年、コロナ禍のありを受けて取引先からの受注が激減し、会社の業績が急速に悪化してしまつたのです。年商はピーク時の

者勉強会「福盛塾」で経営のアドバイスを受けたことが縁で、その後も、たびたび相談させていただいてきました。

本を読み返しながらか、以前、福永さんにかけてられた言葉を思い出しました。

「どんなに一生懸命やつても、苦はず出でくる。でも、そこであきらめちやいけない。お釈迦さまは『人生は苦なり』と喝破かつぱされているでしょう。苦があるのは当たり前と思つて、その苦を成長の糧とし、六波羅ろくはら蜜みつの精神で自らを高めていくことですよ」

その言葉を深くかみしめました。そして、ご供養をしながら改めて自分自身をふり返つたのです。

思い返せばコロナ禍の前は、業績が順調に伸びていたこともあり、「俺がこの会社を支えている」といった

四割程度にまで落ち込みました。それでも従業員の給与や諸経費といった固定費の支払いは変わりません。手元の資金が減つていくことへの不安が募りました。もし会社が倒産したら、従業員を路頭に迷わせ、自宅も手放さなければならぬ——そんな心配が胸をよぎり、寝ても覚めても頭のなかには資金繰りのことばかりでした。

そんななか、耳を疑うような事件が起こりました。ある男性従業員が派遣先の建設工事に日雇い労働者の給与を水増し請求し、その余剰分を詐取さくしゅしていたのです。男性は事

驕おごりが心のどこかにありました。精いっぱい仕事に取り組む従業員や、陰で支えてくれる妻への感謝もありませんでした。〈従業員に不正を働かせてしまつた責任はすべて私にある。今回の出来事は仏さまが与えてくれた試練〉と受けとめさせていただきました。

以来、会社を始めた時のへ人に喜ばれる仕事をしたという願いに立ち返り、ビル建設などだけでなく、どんな仕事も感謝して受けさせていただけこうと、下水道、舗装の工事といった仕事も引き受けるようにしました。営業先では商談だけでなく、相手の会社の状況や困り事も聞かせてもらうなど、いままです以上に仕事相手との関係を大事にさせていたいただきました。

経営も見直し、経費の削減、役員報酬をカットする一方、社員の給料

件発覚後、行方不明となりました。私の管理不行き届きが原因でしたが、信頼していた部下に裏切られ、さすがにショックでした。悔しいやら、情けないやらで、心労は増すばかりでした。

### 人生は苦なり

心の整理がつかずに数日が過ぎたある夜、ふと福永正三ふくながしんぞうさんの著書『会社再建——サラリーマンを超えた男』を開きました。福永さんは、開祖さまや、京セラの稲盛和夫いなもりかずお氏から直接薫陶くんとうを受け、企業再建に携わつてきた方です。八年前、杉並教会の経営

は保証させていただいたのです。今年八月、不正請求で迷惑をかけた建設工事に、不正受給金を返金する期限を延期していただくお願いに上がった時のことです。

「岡村さん、お金は返さなくてもいいよ。仕事を回してくればいいから。つき合ひも長いのだし、岡村さんの誠実な人柄は良く分かっているよ」。社長から思つてもみない言葉をかけられ、有り難くて涙があふれました。

いま、おかげさまで新規の受注も増え、忙しい毎日を送っています。新入社員になった気持ちで誰よりも先に出勤し、事務所の掃除をするなど、従業員たちが気持ちよく仕事ができる職場づくりに努めています。「まず人さま」の精神を心に刻み、仕事を通じての菩薩行に精進していきたいと思ひます。